

令和元年11月8日（金）

場所：倉敷市立中庄小学校 下体育館

学級：1年D組 35名（男子17名女子18名）

指導者：森岡 麻里

1 単元名

「落ちずにポーズ！ ～めざせバランスマスター！～」

（体づくり運動：多様な動きをつくる運動遊び）

2 児童の実態及び単元を通して身に付けてほしい力(単元目標)

○ 単元目標

運動の課題や行い方を知り、バランスを保つ動きを身に付けたり考えたことを友達に伝えたりし、進んで体のバランスを保つ遊びに取り組むことができる。

○ 児童の実態

本学級は、男子17名、女子18名計35名である。課題に対して前向きに取り組み、ルールや約束をきちんと守り、どの場面でも一生懸命活動する児童が多い。体を動かすことが好きな児童が多く、休み時間には積極的に外で遊ぶ姿が見られる。

1年生では、水遊び、ボール投げゲーム、マット遊びの学習に取り組んできた。自分で解決方法を多様に考え、試したり友達と協力したりして課題に取り組むことができるようになってきた。しかし、自分の考えたことや試したことを友達に伝えたり、考えを聞いたりする活動は不十分であった。また、学校生活全体からみても、伝えたり聞いたりする力はまだ課題が残っている。

そこで、本単元では、目標を「運動の課題や行い方を知り、バランスを保つ動きを身に付けたり考えたことを友達に伝えたりし、進んで体のバランスを保つ遊びに取り組むことができる。」と設定し、自分の考えたことを伝えたり友達の考えを聞いたりすることで、進んで体の多様な使い方に気付き、自分なりに考えたバランスを保つ動きを身に付けることができるようにしていきたい。

3 運動の特性と挑戦課題

子どもたちは、体が不安定な状況において、どうにか安定を保とうとする時、バランスをとりたくなる。不安定なポーズ、不安定な場だからこそバランスをとることがおもしろいと感じたり、できるかどうか試したりして「夢中」になると考える。

そこで本単元では、「落ちずにいられるかどうか」という挑戦課題を設定し、グループみんなで向こう側に行く遊びをする。向こう側に行くためには、決められたエリアでバランスをとって落ちないようにすることが条件となる。落ちないようにするためにうまく体を操作し工夫し続けることで、失敗しながらも遊び続けることができる考えた。「夢中」になって遊ぶ中で、自分の体の使い方に意識を向け、自分なりのバランスのとり方を試行錯誤するおもしろさに気付かせたい。また、「落ちてはいけない」「みんなで向こう側に行く」という条件や課題は、プレイしている子どもにとっても、見ている友達にとっても分かりやすい「コト」であり、共有しやすいと考える。

4 本実践の提案性（主張点）

「落ちずにいられるかどうか」という遊びの世界を立ち上げることで、児童は必要感をもちながら挑戦課題に向かって夢中になって体づくり運動（バランス遊び）を楽しみ、結果遊びを通していろいろな体の使い方を追求していくことができるのではないかな。

体づくり運動では、運動を単体で捉えがちであり、トレーニングになってしまいやすく、運動の意味や体力要素につながりにくいことがあった。また、新しいめあてがもちにくく、**主体的な学習**になりにくかった。

そもそも、自分の体の動かし方が**変化することや**、体の使い方がうまくなっていくことのかを知ること自体がおもしろいことであり、興味深いことである。「次は〇〇してみよう。」という児童の知的探求を促すために、遊びたくなる課題や場を設定することは大切であるとする。子どもたちが「自分ごと」として運動のおもしろさに目を輝かせ、「夢中」になって活動することができるように、遊びの世界を**創造するために**、共通の課題を出し、子どもたちがその世界に没頭して遊ぶようにデザインする。結果として、体の使い方が多様になったり高まったりするという子どもの思考を大切にしていきたい。つまり「バランス遊びの世界で、挑戦課題に向かって夢中になって遊ぶことで、場の状況に合わせて自然とバランスがとれるようになる。」ということである。

大切にしたいことは、次の2点である。

- ① 手軽な運動遊び（行い方がシンプルで分かりやすい）で、だれもが運動のおもしろさを理解し、今ある力で運動遊びのおもしろさを味わうことができるようにする。
 - ② 発達段階や実態、身に付けてほしい力をふまえて「競争」ではなく、「達成」「克服」というおもしろさ、つまり「落ちずにゴールにたどり着く」というおもしろさを味わいながら運動に取り組むことができるようにする。
- 子どもたちがこのシンプルな運動遊びに「夢中」になる中で、自分の体の使い方にふと気付いたり、ルールをより高度なものへ変化させたり、友達と協同的に活動したりするなど様々な視点から学びが広がっていくと考える。その結果、主体的・対話的で深い学びに*いざなう*ことができると考える。

5 運動のおもしろさを広げるための手立て

（1）運動のおもしろさを共有するために

○ 挑戦課題を共有するための手立て

まず、行い方を確認するために「だるまさんがころんだ」で遊ぶ。次に場を変えて物の上でポーズをとるといふ遊びの体験を通して、子どもと「落ちずにいられるかどうか」がおもしろい遊びであることを共有し、挑戦課題を設定する。低学年の実態を踏まえ、遊びを通して課題を共有していくようにすることで、バランスをとることのおもしろさを実感できるようにする。また、向こう側までたどり着いた子どももそれで終わりではなく、ゴールしてもバランスをとり続けるようにする。さらに、友達の応援をしたり、アドバイスをしたり、サポートをしたりするなど友達との多様な関わり方をすることができるようにする。

○ 「問い（ねらい）」と「めあて」のもたせ方の工夫

子どもたちがやってみたいと思えるように平均台やマットなどを使って場の設定を行う。さらに、「落ちなかったのは、なぜ？」と問いかけることで、子どもたちは場に触発されて、落ちないようにするためのバランスのとり方を試行錯誤することができるようになる。また、問いは変えず、場を変化させてバランス遊びに取り組ませ、1時目に共有した体の使い方を分かりやすく

掲示する。そして、「今まで学んできたバランスのとり方がこの場でも使えるかな？」と問いかけることで、自分の挑戦したい体の使い方を選択し、具体的なめあてをもって活動することができるようにする。

(2) 運動のおもしろさを味わい続けるために

○ 主体的な試行錯誤を促すための手立て

- ・ 高さや面積が違う物を置くことによって、その場の状況に応じた体の使い方を工夫することができるようにする。単元の途中から、自分に合ったバランスのとり方をしている児童の姿を共有したり、教師が称揚したりすることで、より多様なバランスのとり方を試すことができるようにする。
- ・ 子どもの実態に合わせて、乗る物の種類や数、出す順番を工夫することで、場に応じた体の使い方を試行錯誤することができるようにする。
- ・ 様々な体の使い方を示したポーズカードを掲示しておき、子どもが自由に選択したり、ポーズを変化させたりすることで、主体的にバランス遊びを楽しむことができるようにする。
- ・ バランスをとるために意識した体の部位にシールを貼ることで、子どもたちがその部分を意識しながら遊ぶことができるようにする。また、意識している体の部位を視覚化し共有することで、自分では気付かなかった体の使い方に気付くことができるようにする。

○ 学習集団・学習形態の工夫（弱いつながりを大切にするための手立て）

- ・ 1・2時と3・4時と同じグループで活動する。ランダムにグループを編成することで、様々な考え方や体のバランスのとり方に自然と目を向けることができるようにする。
- ・ 振り返りの時に、近くにいる子ども同士で話し合いをすることで、グループをこえて思いや考えを共有することができるようにする。

(3) 学習評価の工夫

○ 児童の自己評価力を高め、めあてを変化させながら学びを深めていく姿をイメージする。

- ・ 教師が児童の変容を見取り伝えることで、児童が自分のバランスを保つ動きの高まりを感じることができるようにする。
- ・ バランスをとるために意識する部分にシールを貼り、自分の体の使い方に意識を向けながら遊ぶことで、振り返りをしたり、振り返りに対するめあてをもったりすることができるようにする。

	知識及び運動	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
目標	運動の行い方を知り、体のバランスを保つための運動をすることができる。	落ちずにいるための遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えている。	きまりを守り誰とでも仲よく運動しようとし、場の安全に気を付けながら進んで運動遊びに取り組もうとしている。
評価規準	ア 運動の行い方やバランスを保つ体の使い方を知ることができる。 イ 体のバランスを保つ動きを身に付けることができる。	カ 体のバランスを保つ遊び方を工夫している。 キ バランスを保つ体の使い方を動作や言葉で伝えている。	サ きまりを守り、誰とでも仲よく運動遊びに取り組もうとしている。